

文化薫道

ぶんか
くんどう

◆其の百三十

壺の秘密

この美しい形をした壺(つぼ)は弥生時代前期(約2千年前)のもので、筑紫にある前畑遺跡の貯蔵用の穴から出土しました。



▲前畑遺跡出土「博多出身の壺」

土まみれでしたが、なにか違和感を覚えて洗ってみると、焼き上がりがよく、全体のバランスも良いものでした。さらに壺の底から貝殻が出てきて驚きました。

後々、その貝殻を調べると、博多湾方面でしか採れないアサリが含まれていました。

そこで違和感の正体に気づきます。壺の形が市内で出土する同じ時代の壺とは違うのです。壺をよく観察すると、博多湾方面で出土する弥生土器に似ていることが分かりました。これで、壺と貝殻と一緒に筑紫に來たのだろうという考えに至ったのです。

壺の形に隠されていた秘密。それは、当時、筑紫の人々が博多湾方面へ出向いたときに、貝などと、その入れ物として壺をもらって持ち帰り、家で貝を食べ、壺に殻を入れてそれごと穴に捨てたというストーリーでした。

一つの壺の形から、当時の交流のありさまや、日々の生活の一コマがよみがえってくるのです。

問文化財課

